

# 八王子市の地域分析調査

## - 基本構想・基本計画の 6 地域を知るために -

はじめに

### 地域分析の意義と方法

#### 1. テーマの設定

『八王子市基本構想・基本計画（八王子ゆめおりプラン）』の設定する 6 地域の現状は、どのようになっているのだろうか。また各地域の個性（地域特性）はどのような点にあるのだろうか。『そもそも 6 地域になった背景・経緯はどこにあるのだろうか』『各地域は、今、いかなる変化の中にあるのだろうか』『多様な政策分野にわたる行政は、それぞれどのようなエリアを基本にして、市民や地域の需要に応えているのだろうか』『現状の中に、今後さらに掘り下げて検討する必要のあるような課題はないだろうか』。

八王子市都市政策研究会議の、平成 21 年度にスタートした研究テーマのひとつは、こうした極めて素朴ではあるが、本市における今後の政策形成にとって不可欠かつ最も基本的ないくつかの問いに端を発している。少子高齢化の推移はもとより、地域社会の現状と変化、広義の公共サービスの提供方法などに関する正確で深い把握と分析なくして、自治体の政策はありえない。改めて指摘するまでもなく、政策・施策は、政府として実現したいと考える目標（像）と現実とのギャップを埋めていく手段にほかならないからである。

#### 2. 次なる問題意識の芽生え

もとよりそうした作業は、各所管において、日々なされている仕事の一部をなすものであろう。政策分野ごとの行政計画の策定であれ、新規の取り組みであれ、各課において日常的業務に関連してストックされている情報の蓄積には相当なものがあると推察される。しかし、「地域」というものにこだわり、その実際を深く捉え、その変化を分析しつつ地域間の比較を試みようとする時、またそうした地域データを基礎としてマクロとミクロの両方の視点から市全体の変化を分析し、将来的な変化の行く末を探ろうとする時、さらに言えば、最終ビジョンに照らして政策的に何が求められているかを検討しようとする時、現状においてストックされている情報ストックもおそらく十分とは言えないのではないだろうか。分析や総合化の手法においても、さらなる工夫の余地があるかもしれない。冒頭に紹介した素朴な問いを温める中で生まれた問題意識は、このようなものだった。

では、どのようなデータが不足しているのか。すでにストックされているデータを、どのように分析したりまとめたりする必要があるのか。どちらも重要な検討課題ではあるが、決して容易な作業ではない。また短期間でできるようなものでもない。どちらも、研究を進めながら、考察を深めながら、初めて見えてくるものだからである。そこで職員研究員、市民研究員を交えた議論を重ねる中で、大きく 3 つの分野（政策課題）を設定した上で、研究員が分担して担当することとした。調査・研究対象に接近する中で、また利用可能な既存データの状況なども考慮して、最終的にまとめられたのが、本誌に掲載されている（1）高齢社会の現状、（2）災害に強いまち

づくりの取り組み、(3)コミュニティの現状と市民参加・協働の3つのサブテーマであった。また研究作業にあたっては、いずれの研究グループも基本的に国勢調査、市政世論調査、各種行政計画など、すでに各課にストックされているデータを用いて分析することとし、新規のデータ収集活動は次の課題とした。

### 3．研究作業の成果

こうして、20年度の研究活動は、内容としては従来にも増してかなり高度な作業を研究員に要求するものとなった。各サブテーマに関する研究作業の成果は本文に譲ることとして、ここでは、(1)作業全体を通して気づいたこと、(2)分析・考察の手法として採用したGIS(地理情報システム)の有効性、これら2点について若干述べておきたい。

冒頭に触れたように、最初の素朴な問いとそこから生まれた問題意識を基礎にした分析の主眼は、各地域にどのような地域特性がみられるのか、本市全体としていかなる傾向がみてとれるのか、という点に置かれた。しかし、作業を進めながら多くの研究員の頭を悩ませたことは、各地域の地域特性や抱えている課題を把握でき、地域を比較できるようなデータが、現状では意外に少ないという事実である。あるいはそのように整理されていないという場合もある。当然のことではあるが、通常、情報やデータの収集は、その前提として「大きな問題意識のもと、何事かを明らかにしたい」という特定の目的があってなされる。地域の現状や変化のありようをより深く探ろうとするデータが多くないという事実は、言い換えれば、そうした目的意識が弱かったということを意味する。もちろん、「地域」といっても、課題や分野によって適正範囲が異なるであろう。多様な政策分野について、そうした地域の重層を含めて、地域の変化を把握していくことが必要と思われる。

第二は、こうした地域分析にGISという手法がかなり有効ではないかということである。この手法の活用の意義と課題については、指導に当たられた坪井塑太郎研究指導員の論考を参照されたい。言語の習得に聴覚を通した音・響きが重要であることに似て、基本的に面的な広がりをも前提にした社会現象や地域変化を探っていく際、視覚を通して得られる情報には、活字だけによる場合とは異なる手ごかりが多数含まれる。あるいは新たな発見がある。今回の研究作業でも、活字情報と相補の関係をもって地域にアプローチできたのではないだろうか。

### 4．誰のための地域分析か

では、こうした地域分析は、誰のため、何のためにあるのだろうか。市内全域を知悉している職員は多くはないのかもしれない。しかし、「政策はどこから生まれるのか」という基本的な事柄を改めて想起する必要があるだろう。各分野の取り組みを通して、また地域・市民から寄せられる声とともに、地域の現状と変化を深く知り、それを行政全体として共有することは極めて重要なことであろう。そうして共有された情報は、政策形成に関わる両者の対話をより実りあるものにし、その信頼関係を強めるためにも必須と思われる。

市民にとって「地域」とは何か。行政にとって「地域」とは何か。今、改めて「地域」に眼を向け、「地域」を考えることが求められている。

## 八王子市都市政策研究会議 地域分析部会メンバー（50音順）

### 【都市政策アドバイザー】

羽貝 正美 （はがい まさみ） 首都大学東京大学院都市環境科学研究科教授

### 【研究アドバイザー】

前田 成東 （まえだ しげとう） 東海大学政治経済学部教授

### 【研究指導員】

坪井壘太郎 （つぼい そたろう） 立教大学社会学部兼任講師

吉田 樹 （よしだ いつき） 首都大学東京大学院都市環境科学研究科助教

### 【市民研究員】

市川 晶子 （いちかわ あきこ） 川町在住

岡崎 理香 （おかざき りか） 別所在住

湯野川 裕嗣 （ゆのかわ ひろし） 市内大学在学

吉田 豊 （よしだ ゆたか） 南陽台在住

### 【職員研究員】

川口 順子 （かわぐち じゅんこ） 環境部水循環室主任

小林 暁 （こばやし さとる） 学校教育部施設整備課主事

指原 寛 （さしはら ひろし） まちづくり計画部交通政策室主任

豊田 慎吾 （とよだ しんご） 総務部IT推進室主任

長谷高 靖 （はせだか やすし） 市民部市民総務課主任

濱中 良哉 （はまなか よしや） 健康福祉部地域医療推進課主事

福田 純 （ふくだ じゅん） 行政経営部行革推進課主任

丸山 茂樹 （まるやま しげき） 環境部環境政策課主事

村石 雅紀 （むらいし まさのり） 税務部住民税課主事

吉住 康 （よしずみ やすし） まちなみ整備部建築指導課主事

## 地域分析部会研究報告書の掲載データ等に関する補足

### データについて

- ・本報告書で地図の作成などに使用しているのは、無料のGIS（地理情報システム）ソフト「MANDARA」であり、以下のURLからダウンロードすることができる。  
<http://ktgis.net/mandara/download/index.html>
- ・本報告書の図表で使用している地図データについては、平成17年国勢調査時の町丁界となっている。
- ・本報告書の図表で示しているスポーツ関連施設や病院、訪問型介護サービス、学校など施設の位置は、東京大学空間情報科学センターが提供するアドレスマッチングサービスを利用して、地図上に示したものだが、あくまでも「概ね」の位置である。
- ・第1章の図表3で使用した航空写真は、国土交通省が提供する「オルソ化空中写真ダウンロードシステム」から入手したものである。
- ・第3章の図表等で使用されたデータのうち『八王子市地域防災計画』がもとになっているものは、すべて平成20年度のデータである。

## 報告書の構成と執筆分担（カッコ内は執筆担当）

### <はじめに>

- 地域分析の意義と方法** (羽貝) pp83-84  
八王子市都市政策研究会議 地域調査部会メンバー・報告書の構成と執筆分担  
(事務局) pp85-86

### <八王子における地域区分の経緯と現状>

ここでは、八王子市の基本構想・基本計画上の6地域を紹介するとともに、区分がなされた経緯などを示している。その上で本市の各種計画などで示されている地域区分や本市の人口などに関する基本的なデータなどを示すとともに、本市の行政施設に関する考察を試論として行った。

- 第1章 八王子の6地域とは 6地域の成り立ちについて**  
(事務局) pp87-88
- 第2章 6地域の位置付け 市の計画とのかかわり**  
(事務局) pp89-90
- 第3章 6地域の人口について 人口の推移・人口分布・人口密度など**  
(事務局) pp91-93
- 第4章 6地域における行政施設の設置状況 施設と地域との関係**  
(事務局) pp93-94

### <政策課題別に見る地域区分>

本市の地域の状況を、各種の政策課題別に整理したうえで、状況を紹介しつつ一定の分析を加えたものである。分析に当たっては6地域をもとにしつつも、各政策課題によって、分析対象となる地域の「範囲」を変えている。各章のまとめでは、政策課題ごとのまとめと分析の過程から見えてきた、「地域」に関する提言を行っている。

- 第5章 一人ひとりが大切にされ共助で築くふれあいのまち**  
(湯野川・豊田・濱中・村石) pp95-102
- 第6章 八王子の防災 災害に強いまちづくり**  
(市川・吉田・川口・指原・丸山・吉住) pp103-108
- 第7章 各地域のコミュニティの現状を知る**  
(岡崎・小林・長谷高・福田) pp109-114

### <研究報告>

本研究において重要な表現・分析手法となったGISについて、本研究活動における活用と、基礎自治体におけるGISの意義と課題を示したものである。

- 自治体におけるGIS活用の意義 自治体職員向けのGIS講義を踏まえて**  
(坪井) pp115-119